

2020 年度第 3 回 私立大学図書館協会西地区部会スリム化検討委員会議事要録

1. 日時：2021 年 1 月 25 日（月） 15 時 00 分～16 時 50 分
2. 場所：ZOOM 会議
3. 出席：14 校 24 名

役員名称	大 学 名	職 名	氏 名
2020 年度監事校	名城大学	附属図書館情報管理 課課長	川村 信一
2021 年度会長校	西南学院大学 (オブザーバー)	図書館課課長	吉田 進
		図書館課副課長	山下 大輔
2021 年度西地区部会長校	松山大学	図書館事務部次長	高岡 秀典
		図書館事務室事務長	児島 理恵
2020 年度東海地区理事校	日本福祉大学	学務部次長兼図書館課長	松橋 秀親
		事務職員	石川 宗臣
2020 年度京都地区理事校	帝塚山大学	図書館課長	屋山 俊幸
		図書館課員	小松 愛
2020 年度阪神地区理事校	大阪樟蔭女子大学	事務長	森本 康平
2020 年度中国・四国地区理事校	徳島文理大学	図書館長	溝口 隆一
		事務長	中井 淳也
		職員	山下 仁美
2020 年度九州地区理事校	福岡工業大学	次 長	中島 良二
		司 書	河野 真奈美
2021 年度東海地区理事校	愛知工業大学	参事	加藤 直美
2021 年度京都地区理事校	近畿大学農学部	職員	近藤 明子
2021 年度阪神地区理事校	四天王寺大学	図書館課 課長	豊留 学
		主任	米谷 明
2021 年度中国・四国地区理事校	川崎医療福祉大学	図書館長	種村 純
		係長	細川 芳美
		副主任	杉本 美佳
2021 年度九州地区理事校	久留米大学	課長	福田 力
2020 年度西地区部会 部会長校	佛教大学	課長	沼尻 直美

議事

1. 輪番制の抜本的見直し案について

前回、帝塚山大学・近畿大学農学部より提出された具体案も含め、輪番制の抜本的見直しの具体案として東海地区（3地区合同）・近畿大学農学部・徳島文理大学・川崎医療福祉大学・福岡工業大学より提案があり、それぞれの提案案について各地区協議会理事校より発表がなされた。（資料 No. 1～6 参照）

資料 No. 1：東海地区協議会：日本福祉大学 松橋様（東海地区 3 地区合同）

資料 No. 2：京都地区協議会：近畿大学農学部 近藤様

資料 No. 3：中国・四国地区協議会：徳島文理大学 中井様

資料 No. 4：中国・四国地区協議会：川崎医療福祉大学 細川様

資料 No. 5：九州地区協議会：福岡工業大学 中島様

資料 No. 6：中国・四国地区協議会：松山大学 児島様

（参照：前回提出資料 参考資料 2-1～3：帝塚山大学，参考資料 3-1～2：近畿大学農学部）

〈意見など〉

【佛教大学：沼尻】

これまでの西地区部会スリム化委員会で提案された具体案をまとめたところ、下記①～③のように「西地区全体で輪番を組む」で意見が一致されていることが確認された。

また、選出基準として専任職員数を含める場合、専任職員数は流動的なので、輪番制を作成する際、作業が困難になることの懸念が示された。

〈スリム化検討委員会のまとめ〉

① 全体「会長校」「総会」「研究会」 / 「西地区部会長校」

→ 西地区全体で輪番（7,001人 or 8,001人以上～）

② 西地区「総会」「研究会」「会報担当」

→ 西地区全体で輪番

（4,001人 or 5,001人 or 6,001人以上～ 7,000人 or 8,000人以下）

※①②の収容定員に限らず、各大学の専任職員数も調査する（要検討）

③ 西地区「部会長校」「総会」「研究会」「会報」 → 業務内容精査のうえ業務委託化を検討

〈上記を踏まえて、今後の調査内容と作業の流れ〉

① 各加盟館の「収容定員数」「専任職員数（要検討）」→アンケートフォームなどで収集

② 各業務内容の精査→今年度の担当者に項目ごとにまとめてもらう※2020年度完了させる

③ 業務委託するなら、業者選択や、見積取得→業務委託までの処理手順洗い出し

④ 輪番表の組み直し→上記①を参考に具体的に立案

⑤ 各種、西地区部会申合せ・規定の更新原稿作成と総会承認

〈上記の作業をするにあたってのスケジュール〉

- ① 2020年度 上記方針を3月上旬役員会で承認
- ② 2021年度 役員会・総会までに、上記調査内容の①③を整備し、下準備したうえで、輪番制の抜本的変更について承認をえる。
- ③ 2021年度 後半に④⑤を作成
- ④ 2021年度3月上旬役員会で、新規輪番表の承認
- ⑤ 2022年6月総会に新規輪番表の承認
- ⑥ 上記全ての承認が終わったところで、新体制のスタート（スタート時期については要検討）

佛教大学より、スリム化検討委員会のメンバーに重ねての周知になるが、これまでのスリム化に向けた経緯を時系列にそって改めて説明がなされ、今後の方向性について念押しがなされた。

2015-16年度 部会長校：福岡大学（会議の回数を削減）

西地区役員会を年3回から2回へ

研究会運営委員会を対面会議からメール会議へ変更

2017-18年度 部会長校：大阪工業大学

西地区総会・研究会を同一開催へ

地区活動の精査と輪番制の見直しの方針を役員会で決定

2019-20年度 部会長校：佛教大学

前任校から引継ぎ、地区活動の精査と輪番制の見直しをすすめることから始めた。

全加盟館へのスリム化への意見収集→7割の加盟館が地区活動の解消と縮小を希望していることを確認した。ただし現在活発に活動している現状と歴史を重んじる意見等から即刻解消することが出来ないため、まずは輪番制の抜本的見直しを行う方針を決定し、スリム化検討委員会の発足について2019年度西地区総会で承認を得た。

以上の説明の後、意見交換が以下のとおり行われた。

【近畿大学農学部：近藤】

専任職員数が流動的であるのは確かである。輪番制を組むにあたり、収容定員・専任職員数を調査したうえで輪番を組んでおいて、実際に業務をスタートする際に、問題がないかなどを調査することの意見が出された。

【佛教大学：沼尻】

直前に職員数を確認した際に、実際に引き受けられないような事態になる場合、対応が困難である。専任職員数を考慮することで、輪番制を組む作業のハードルがあがることの懸念が示された。

【松山大学：児島】

佛科大学の懸念していることに同意できる。今回の提案内で職員数の現状を把握することは難しいため、収容定員にて輪番制を組むよう提案している。また、専任職員数は人事異動でいつどのように変更となるか不確定要素が多いため、輪番制を組み直す際に専任職員数を考慮するとすれば、専任職員が1人しかいない場合については加味する程度が妥当であると考えます。

【近畿大学農学部：近藤】

収容定員だけで輪番制を組むと、直前の状況で輪番制を決めても実際できないということが結局繰り返される。

【松山大学：児島】

全体的な業務を軽くするということが前提。そのうえで、どれだけ業務委託にシフトできるのか検討していく。業務委託になった場合も、専任職員が全く関与しないというわけにはいかないと思うが、業務量が減ることにより、役員や当番校を引き受けやすくなるのではないかと。

【佛科大学：沼尻】

現在の輪番表では、おおまかな地区を割り当てた表で運用されているが、九州地区においては、理事校などの選出に苦労されているが、どのくらいのタイミングで具体的な大学名を決めているのか知りたい。

【福岡工業大学：中島】

九州地区の現状としては、輪番制の大学は決まっていたが、「当時の専任職員数など、違っており、引き受けることができない」とのこと、辞退され空白となった。その後、他大学に理事校をお願いしているが、承諾を頂けない。

【近畿大学農学部：近藤】

松山大学様のご意見にあったように、専任職員が1人でもできるくらいまで業務が減れば、収容定員数のみで輪番制を組み立てることは可能だと考える。

【佛科大学：沼尻】

以上の意見をふまえ、「業務委託」がキーポイントになるのではないかと。一旦まとめると、今年度のスリム化検討委員会においては、「業務委託を踏まえて、西地区全体で輪番制を組む」という方針でまとめてよいかと。

【福岡工業大学：中島】

地区理事校についてはどのようなようになるのか？

【佛教大学：沼尻】

九州地区より、輪番制の中に地区協議会理事校も含めるという意見があったことは承知している。スリム化検討委員会においては、会長校、総会・研究大会、西地区部会長校、西地区総会当番校、西地区研究会当番校、会報担当校、各地区協議会理事校を含めた輪番制を見直すことになっている。

各地区協議会理事校においては、地区内で一旦先々までの輪番制を組み、その表を全体の輪番表に組み込んでどうかと考えている。

【福岡工業大学：中島】

5 地区理事校については、収容定員にかかわらず、大学を決めるのか？

【佛教大学：沼尻】

地区により状況が違うので、全体として各地区協議会理事校を決める際の一定の基準を決めるのは難しいのではないかと？

【福岡工業大学：中島】

九州地区の実情は、理事校を受けていただける大学がないので、スリム化しようという認識。九州地区で輪番制を組もうとすると退会が増えるというのが実情。理事校の業務が半減したとしても、理事校自体を受けることができないという大学が多い。研究会担当についてもなかなかむずかしい状況である。そういう意味で5 地区解消に対して賛成している。

【近畿大学農学部：近藤】

西地区部会である程度、地区協議会の業務スリム化の方向性を先導しないと、地区だけで決めるとするのは無理があるのではないかと？

【佛教大学：沼尻】

西地区部会から地区活動の縮小を来年度より依頼した場合、すぐに対応はできるのか、各地区の現状を確認したい。

【日本福祉大学：松橋】

部会長校からの方針が出た場合は、可能ではないか。きちんとした着地点の明記を提示した上で検討しておくことは難しくないのではないかと。

【帝塚山大学：屋山】

京都市は年2回総会・研究会を実施しているが、こちらを変更する場合、協議会内で提案・協議し、最終的には京都地区協議会の規定を変更する必要がある。西地区全体で方向が決まったので、各地区の規定を変えるとすると、ある程度の反対意見が出る場合もあるので、容易に変更

ができるかといえばそうではないと思う。西地区全体から輪番制を組むことになると、西地区の役割が当たるところは各地区の役割は当たらないというように地区の規定の変更が必要になる。いずれにせよ、各地区内の業務の調整については地区理事校が重い業務を負担していかなければならない。

【大阪樟蔭女子大学：森本】

阪神地区の年2回の総会・研究会を実施。各地区の幹事校を年ごとにずらして担ってもらっているため、回数が1回になり、当番をずらすことに関しては影響がないかと思う。ただ、今年度は緊急事態宣言を受け、対面での会議が縮小されているので、話し合いの機会が減り、議論できる環境が整っていないので、話を進めていくうえで難しいのではと考える。

【徳島文理大学：中井】

中国・四国地区では、現在年1回の総会・研究会の実施。今の段階では、現状で問題はなく実施している。コロナ禍の状況を鑑みて、今年はすべてオンラインで開催し、来年度もオンライン開催を予定している。この先、地区協議会が解消された場合は、地区の総会は必要なくなるが、地区研究会は残すべきかの議論が必要と考える。

【福岡工業大学：中島】

総会年1回・研究会1回を実施。それを実施するための担当校での打ち合わせの回数が多い。メール会議などに変更してはいるが、負担がまだ多い。地区での研究会を中止するのであれば、西地区での研究会は実施するなどして協会に加盟しているメリットを残すことを前提に、地区活動を縮小化は可能かと思う。

【佛教大学：沼尻】

佛教大学が西地区部会長校をスタートした時点で、年1回の西地区総会・研究会は同日開催に変更して実施した初年度にあたる。西地区については、しばらくはこのまま継続されることが予測される。あと、協会全体として全国の総会・研究大会の実施も今後も継続されると予測される。大阪工業大学からの今後のスリム化引継ぎ事項は、『地区活動の縮小化』と聞いている。地区により状況が違うので、地区の現状にあった縮小を進めたらよいのではないかと方向性を変更する手続きも容易ではないので、例えば数年を目途に縮小しましょう。ということをや西地区全体で決めておき、すぐに実行できる地区とできない地区もあるため、段階的に縮小することを目途にし、必ずしも足並みをそろえられなくてもよいのではないかと。

【日本福祉大学：石川】

今後の方向性として各地区で研究会を残すのであれば、ウィズコロナという状況を鑑みて、地区をまたいで研究会に参加できるオンライン開催も含めて検討すればどうか。各地区の規定の変更については、難航することもあるかと思うが、各地区で加盟のメリットを担保できるよう

な研究会の開催方法の見直しも検討できればと思う。

【佛教大学：沼尻】

くり返しになるが、地区の縮小については、足並みをそろえるのが難しいため、まずは、地区活動を縮小することを目指し、次の段階として地区割を見直す方向で進めていくことになろうかと思われる。例えば、西地区全体として、〇年以内に地区活動を縮小すると決めて進めていくことが妥当ではないか？

【日本福祉大学：松橋】

佛教大学からの方向性で問題ないかと思う。今回は輪番制の見直しということについて西地区部会の着地点がベースにあった上で、各地区活動の見直しを検討していく方向で次年度へ引き継ぐことが良いかと思う。その上で、各地区において実施のスピードに差が出た際には、その都度どうすべきかを考えたらと思う。

【佛教大学：沼尻】

今後、輪番制の変更の実施について、おおよそ2年かかることが予測される。その2年で地区活動の縮小ができるか？参考までに京都地区の状況の確認がなされた。

【帝塚山大学：屋山】

実際やってみないとわからないが、一番大きな問題は規定の変更。西地区全体で縮小するという方向性を示して、地区においてはその方向性に従うという形で進めていくしかないのではないか。

【佛教大学：沼尻】

今後、2021-22年度理事校様が実際に地区活動の縮小への実現に向けて、各地区での話し合いを進めていただきたい。地区活動の精査も2年間を目途に進めていくということを次期理事校様にご同意いただけるのか、ご意見を伺いたい。

【愛知工業大学：加藤】

すでに次年度の地区活動について検討を始めている。一部委託化などを含め、西地区全体の方針に添って進めている。ただ、あまり縮小しすぎると加盟館のメリットがないと感じられ、一般の加盟館が減ってしまう懸念がある。そのようなことも考慮して地区の方で相談していくつもりである。

【近畿大学農学部：近藤】

京都地区での地区活動の縮小化の進め方に不安はある。理事校主導で縮小案を提案し、議論を進めていくしか方法がないのではないか。その際に、縮小されたものについては西地区全体で

のメリットを担保できているということを明確にして進めていければと思う。

【四天王寺大学：豊留】

今までの経緯から、着地点がどこなのか？各地区（研究会等）への思いが強いように感じる。このまま縮小することでスリム化の目的は達成されるのか？加盟校のメリットは感じられるのか？部会長、会長の業務を縮小していく意味でも、リモートを利用する時代に西地区だけでなく、東地区も含め検討をするほうがよいのではないかと。

【福岡工業大学：中島】

いままでの意見をふまえ、進めていけたらと思う。

【川崎医療福祉大学：細川】

中国・四国地区では規模の近い大学同士での意見交換は大変参考になっていたため、これ以上の縮小はどのようにしていくのがよいか？

以上の意見交換について以下のようにまとめられた。

【佛教大学：沼尻】

今後のスリム化検討委員会でも継続的に、各地区での地区活動の縮小の進捗を確認しつつ、今後2年を目途に次期役員校を中心に地区活動の縮小化を進めていくことをお願いしたい。

以上の意見交換をまとめると、2020年度の第2回西地区役員会で以下承認をとることとする。

- ① 業務委託化を含み、西地区全体で輪番制を組み直す。
- ② 地区活動を2年間で縮小化する（輪番制の進行に合わせて2年を目標に掲げる）。

なお、2020年度内に各業務の内容を精査し、一覧にしたものを佛教大学から提示し、来年度以降のスリム化業務を次期部会長校：松山大学へ引継ぐことが確認された。

今回のまとめを2020年度第2回西地区役員会に提案することが確認され、以上をもって、2020年度のスリム化検討委員会を終了することで承認された。